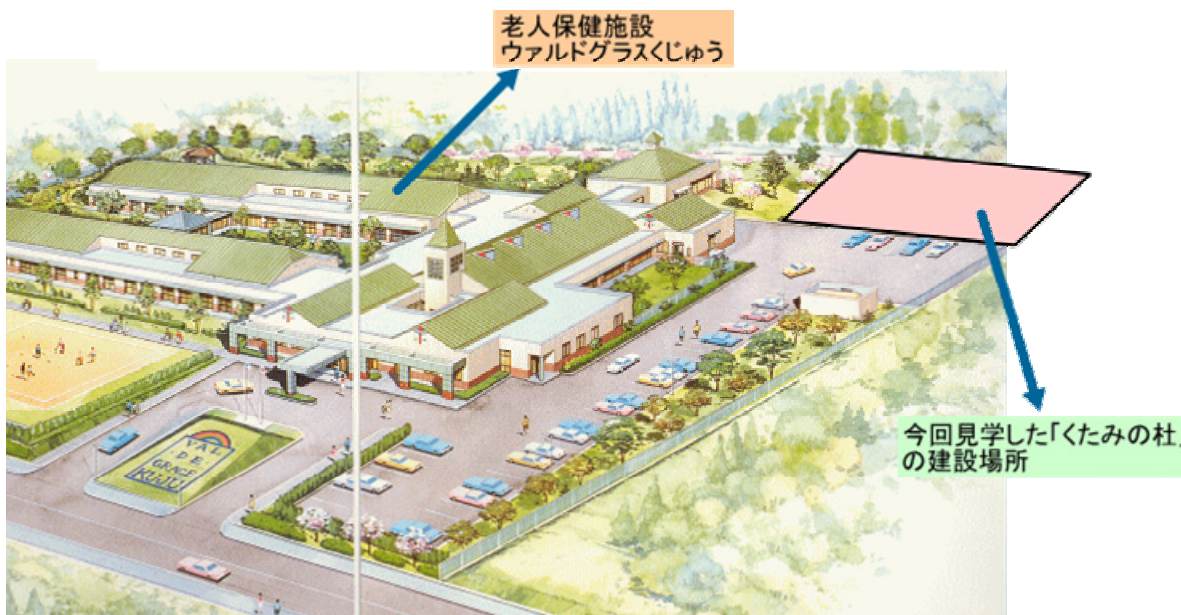


《施設の位置》

5月9日の痴呆性老人のグループホームの「くたみの杜」の写真をとりに行きました。

母体となるのは、老人保健施設「ヴァルドグラスくじゅう」です。





← 《施設の全景》

自分の自宅に近い気持ちになるようにと、施設の雰囲気を取り除いた雰囲気に努めたそうです。

また徘徊老人も多いのですが、なるべく塀はつくらない方針で建設したそうです。



← 《裏の全景》

景観にとけ込む色の低い塀をつくったそうです。



← 《室内1》

部屋のドアの枠は、高齢者に自分の部屋を覚えてもらうために、色を変えています。

中のカーテンもこの色に合わせています。



← 《室内2》

トイレの蓋は、覚えやすいように赤の色にしているそうです。

大久保理事長が全国のグループホームを見学して決めた色らしいですが、ならば便器全体を赤にしてほしかったなあ。

ちなみにトイレは、カーテンで居住部分とくぎられています。においがきにならなきやいいけど。。。こちら辺は下水道じゃないので。



← 《室内3》

お風呂が高齢者には、ちょっと深すぎると思いました。

要介護者でないにしても、高齢者は、原則要介護者仕様にすべきだと思いました。

あとから、こしかけて中に入れるように、回転いすをつけるとの話でした。でも変。

【見学後の感想】

グループホームは、あくまでも「家」でケアハウスではないということを見学しながら痛感した。また、厚生省の設計指針をみると、「あくまでも、自分で生活できるということ」が前提なので、痴呆の高齢者が自ら調理し、援助員が調理をサポートする、というつくりになっていたのに疑問をもちました。やはり、痴呆があつて要介護度3程度の人となると、自力で調理するにはあぶなっかしい感じもします。(畑中)

第一印象として、ヴァルドグラスくじゅう（老人保健施設）がリゾートホテルとしたら、くたみの杜（グループホーム）は温泉旅館のようでした。内部は以外に普通だった。普通ぽさが高齢者にはリラックスできるのかな。(後藤)